

# 洗足徒然日記

こんにちは、高校2年生の報道委員です。前回に引き続き、奈良・京都修学旅行についての話題です。

今回は、実行委員のトップとして活動してくれた理系リーダーのコメントを紹介します。

「今年度の修学旅行は、何といても生徒主体の運営であったというのが特徴でした。実行委員による4日目のバスコース作成に始まり、修学旅行中の点呼といった安全管理についてなど、すべて自分たちで考えて最後の学年行事を作っていました。

私たちの学年は、文系と理系がそれぞれ3クラスと、例年に比べて理系の人数が多いです。そのため、文系と理系のお互いの知識を活かせるように考えて班分けを行ってきました。

1日目は、女性が活躍していた飛鳥時代のことについて実際に遺跡を巡り、肌で感じて学びました。2日目は奈良、3日目は京都で班別自主行動を行い、日本の伝統に触れながら、友人とたくさんの思い出をつくりました。そして4日目は委員が作成したバスコース別研修で、和菓子作りや京友禅染めの体験などをしました。

文系と理系に分かれて以来、私は歴史とは縁がなくなっていました。ですが実際に自分の目で見てみると、細かいことは分からなくても、昔の時代に思いを馳せるだけで、技術も未発達な中で頑張っていた昔の人の偉大さが自然と感じられました。

実行委員として今回が初めての生徒主体運営ということもあり、分からないことが多くて正直とても大変でした。ですが、先生方や実行委員のみんなのサポート、そして何より学年全体の協力があつたので無事に楽しく修学旅行を終えることができました。本当にありがとうございます。実行委員長として最後の学年行事に関わられて、そしてみんなの『楽しかった』という声が聞けて、嬉しいかぎりです。」

確かに、理系の生徒や世界史を選択している生徒にとっては、歴史（特に日本史）とは縁があまりありません。でも、そんな中で実行委員長は理系ならではの目線でそういった人も楽しめるような工夫をしてくれたと思います。例えば、3日目の京都の自主行動では、あえて文系・理系の生徒をミックスした班で活動しました。私は今でも日本史を勉強しているので色々と勉強になりましたし、理系の子にそのことを話すと、面白がってくれて嬉しかったです。実行委員の皆さん、本当に疲れ様でした！

奈良・京都修学旅行についての洗足徒然日記は以上となります。

読んでくださりありがとうございました。

